

広島興行場施設別略年表 一戦前編一

柳下登志子（被爆70年史編修研究会事務局）

市民の娯楽の場である映画館や劇場。被爆前、20¹を数えた映画館・劇場は、被爆により壊滅的な被害を受けた。しかし、終戦から5年後の昭和25（1950）年には18館²に、さらに戦後の復興とともにその数は増加し、昭和35（1960）年頃には常設映画館だけでも64館³となり、広島の興行施設はピークを迎えた。

映画館や劇場の変遷は、市民の暮らしと街の移り変わりを写し出すものでもある。昭和14（1939）年の『大日本職業別明細図／大広島市』⁴では、現在は平和公園となっている中島本町に映画館「高千穂館」と「世界館」の名がある。どちらも勸商場に設置された寄席から活動写真館に転換したものであるが、八丁堀や新天地に見られる映画館は、はじめから活動写真常設館として作られたものが多く、市内電車の開通や新天地の開業によって繁華が東へと移っていったことがうかがえる⁵。

この略年表では、明治から終戦までに広島の映画館・劇場・寄席等の興行施設がどう移り変わったかを、『新修広島市史4巻 文化風俗史編』の記述を中心に、施設ごとにまとめている。施設によっては設立時期や閉館時期が不明のままとなっているが、戦前の広島の市民文化の変遷を知る資料として参考にしていきたい。

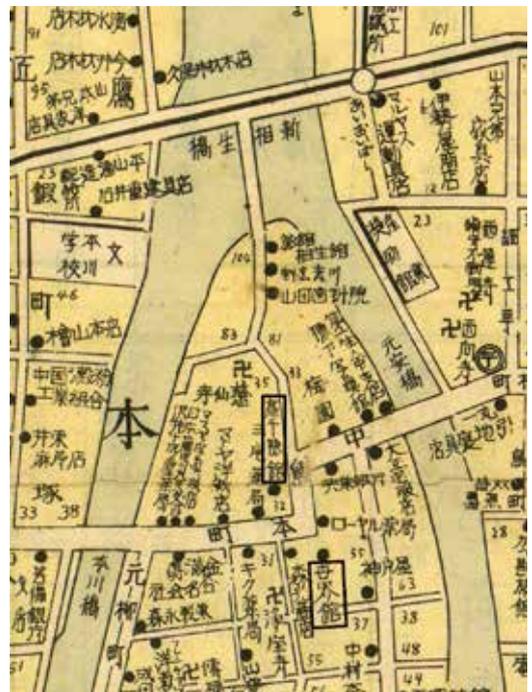
【小網町・西遊郭】昭和14年ごろの地図（巻末出典参照）



飲食店に混じって寿座、有楽館の名が見える。



【中島本町】同左

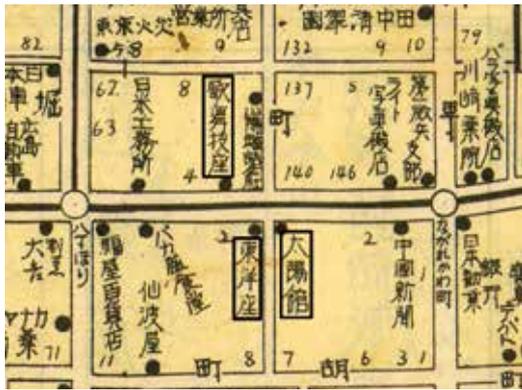


メイン通りに沿って、高千穂館、世界館の名が見える。

写真1 昭和10（1935）年頃の昭和シネマ

中島集産場の第一・第二世界館が一つになってできた活動映画常設館「世界館」は、昭和7（1932）年頃「昭和シネマ」と改称、洋画専門館となった。昭和シネマはその後再び「世界館」に改称した。

【八丁堀千日前】 同前ページ



【新天地界隈】 同前ページ



写真 2 東洋座 (手前) と太陽館
大正 2 (1913) 年頃、千日前に活動常設館として開設



写真 3 大正 10 (1921) 年 開館した頃の日進館
新天地の開場とともに洋画専門館として開館。「広島東
亜倶楽部」を経て「花月」へ。

〈略年表凡例〉

- 1 資料は表末の出典資料一覧のとおりである。使用方法は以下による。
 - ・『新修広島市史』の記載事項を中心に、他の資料を補足的に使用した。
 - ・資料によって記述が異なる場合は、作成が古く詳細である資料を出典として使用した。
 - ・『映画年鑑』については、変化のあった年の記事を使用した。同一施設について同じ情報が複数年にわたって記載されている場合は、運営期間の裏付けとなる時期の記事を選択して使用した。
- 2 興行施設ごとに番号を付してその変遷を記載した。施設は最終確認時点の地域によってまとめた。
- 3 映画館、劇場・その他、寄席の区分は、『新修広島市史』の記載内容によったが、同書に「映画館」と明記されていない場合であっても、『映画年鑑』に「映画館」、「活動写真館」として記載されている場合は「映画館」に区分した。
- 4 施設名称は正式名称と思われるものを記載した。正式名称が明らかでない定小屋、芝居小屋等には、*を付し、その種類を名称として仮に記入している。
- 5 設立(設置)場所については、原則として資料記載の地域名を記載したが、同じ場所で表記が異なる場合は統一した。
- 6 年月日は、原則として資料に記載されているものをそのまま記載したが、資料に詳細な時期の記載がない場合は当該資料の出版年を()に入れて記載している。また、最終運営時点を推定するため、『中国新聞』を参照し、広告等が掲載されている被爆直近の新聞の発行年月日を記載した。記述内容に(上映案内)とあるものがこれに当たる。
- 7 記述内容は、出典資料に記載されている内容を要約して記載した。

広島興行場施設別略年表

1 映画館

No.	名称	場所	年月日	記述内容	出典
1	定小屋*	広瀬村	明治8年	劇場区域制定のため猫屋町から移転	繁昌記 p128
	新地座	十日市町	明治14年5月	設立（劇場）	地名索引
			明治32年	改築	繁昌記 p128
	広島劇場	八丁堀 (千日前)	大正7年10月	改称、劇場から活動写真館に転換。松竹蒲田の封切館となる	新修④ p489
	歌舞伎座		昭和2年12月18日	椅子式の観覧席をもつ新形式の劇場として新築落成	新修④ p483
	河合キネマ		昭和7年9月	広島最初の映画館の争議が起ったため閉館	新修④ p490
	オリオン座			洋画専門館として開館	
	歌舞伎座			自主興行となり改称。大都映画封切館として発足	映画年鑑⑤ p442
広島東宝映画劇場	(昭和9年)		「全国映画常設館調査録」		
	昭和14年12月30日		東宝直営となり、終戦まで続く	新修④ p491	
		昭和20年8月5日	(上映案内)	新聞広告①	
2	帝国館	八丁堀 (千日前)	大正2年1月	市内で二番目の活動写真常設館として開設	新修① p511 統計年表① p139
	松原館		大正10年5月	(入場者数調査)	市議会史 p672
3	朝日倶楽部	八丁堀 (千日前)	大正2年8月15日	開場	統計年表② p137 中国①
4	太陽館	八丁堀 (千日前)	大正2年10月	活動写真常設館として開設	新修① p511 統計年表① p139
			昭和20年7月25日	(上映案内)	新聞広告②
5	日本館	八丁堀 (千日前)	大正2年頃	活動写真常設館として開設	新修① p511
	東洋座		大正13年12月26日	新築開場	新修④ p490
			(昭和3年)	(活動写真常設館)	広島案内 p33
			昭和20年8月5日	(上映案内)	新聞広告①
6	大衆キネマ	八丁堀 (千日前)	昭和5年6月	「日本映画館名録」	映画年鑑④ p589
7	演芸館	大手町	明治44年3月	設立（大正2年調査時は寄席）	統計年表 p139
	天使館	東新天地	昭和2年1月1日	洋画専門館として誕生	新修④ p490～491
	演芸館		昭和10年	寄席に転換	
	天使館		昭和20年1月24日	(上映案内)	新聞広告③
8	日進館	新天地	大正10年	新天地の開業とともに洋画専門館として開館	新修④ p490～491
	広島東亜倶楽部		昭和4年頃	改称	
			(昭和4年)	(活動常設館)	大広島案内 p32
			花月	昭和20年8月1日	(上映案内)
9	映画倶楽部	新天地	大正10年9月7日	新天地開場とともに活動写真館として開業	中国②
	オペラハウス		大正13年	「青い鳥歌劇団」解散ののち映画館となる	新修④ p485
	泰平館		昭和初め	改称	新修④ p490
			(昭和3年)	(活動写真常設館)	広島案内 p33
	帝国座		昭和5～6年頃	開業	新修④ p490
	帝國劇場		昭和15年12月	「全国映画館名録」	映画年鑑⑧ p 又62
		昭和20年8月5日	(上映案内)	新聞広告①	

No.	名称	場所	年月日	記述内容	出典
10	新天座	新天地	大正 10 年 9 月 7 日	新天地開業とともに劇場として開業	新修⑤ p212 中国②
			(昭和 3 年)	(劇場)	広島案内 p34
	新天劇場			宝塚劇場の前身	新修④ p491
	宝塚劇場		昭和 20 年 8 月 1 日	(上映案内)	新聞広告④
11	日本館	新天地	(昭和 9 年)	「全国映画常設館調査録」	映画年鑑⑤ p442
12	鶴の席	中島本町	明治 18 年 10 月 12 日	中島勸商場に設立 (寄席)	尚古 p36 繁昌記 p133
	喜楽館		(大正 7 年)	『大正 7 年発行広島市街地図』に映画専門上映館として掲載	新修④ p489
	高千穂館	東魚屋町	(昭和 3 年)	(活動写真常設館)	広島案内 p33
			昭和 17 年	中の棚に移り終戦前まで存続	新修④ p489
			昭和 20 年 8 月 2 日	(上映案内)	新聞広告⑤
13	胡子座	中島本町	明治 18 年 10 月 13 日	中島集産場に設立 (寄席)	尚古 p36
	第一世界館		(大正 7 年)	『大正 7 年発行広島市街地図』に映画専門上映館として掲載	新修④ p489
	キネマ倶楽部 (第一世界館)		大正 14 年 8 ~ 10 月	「全国映画常設館名簿」	映画年鑑① p146
			大正終~昭和初	第一・第二世界館を一つに改築し世界館と命名	新修④ p489 大広島案内 p32
14	大黒座	中島本町	明治 18 年 10 月 13 日	中島集産場に設立 (寄席)	尚古 p36 繁昌記 p133
	第二世界館		(大正 7 年)	『大正 7 年発行広島市街地図』に映画専門上映館として掲載	新修④ p489
			大正終~昭和初	第一・第二世界館を一つに改築し世界館と命名	新修④ p489 大広島案内 p32
15	世界館	中島本町	大正終~昭和初	第一・第二世界館を一つに改築し命名 (活動常設館)	新修④ p489 大広島案内 p32
	昭和シネマ		昭和 7 年頃	改称、洋画専門館となる	新修④ p489
	世界館		昭和 15 年 12 月	「全国映画館名録」	映画年鑑⑧ p 又 62
	五色劇場		昭和 20 年 4 月頃	太平洋戦争中は実演を主とする劇場となる	新修④ p491 ~ 492
16	定小屋*	立町	明治 8 年	設立するものの興行を許可されず	繁昌記 p126 ~ 128 尚古 p34 ~ 36
	ササキ 笹置座	小網町 (豊屋町)		蓮池を埋め立て移転	
	寿座		明治 32 年 3 月 28 日	設立	
			(昭和 3 年)	(劇場)	広島案内 p34
			昭和 20 年 8 月 5 日	(上映案内)	新聞広告①
17	新明座	小網町 (西遊郭)	明治 28 年 12 月	寄席として新築落成	芸備日日① 地名索引
	新明館		(昭和 3 ~ 9 年)	(活動写真常設館)	広島案内 p34 映画年鑑⑤ p442
	新明映画劇場		(昭和 15 ~ 18 年)	「映画館名録」「映画館録」	映画年鑑⑧ p 又 62 映画年鑑⑩ p481
			新明館	昭和 20 年 4 月頃	「広島市における劇場・映画館」

No.	名称	場所	年月日	記述内容	出典
18	有楽館	小網町	(大正 15)～昭和 17 年	「全国映画常設館名簿」「映画館名録」	映画年鑑② p684 映画年鑑⑨ p10_86
	大東亜劇場		昭和 20 年 8 月 5 日	(上映案内)	新聞広告①
19	文化ニュース劇場	小網町 (豊屋町)		昭和 4 年以降同 15 年までの間に設置	新修④ p492
	文化映画劇場		昭和 15 年 12 月	「全国映画館名録」	映画年鑑⑧ p 762
	文化ニュース		昭和 20 年 4 月頃	「広島市における劇場・映画館」	新修④ p491
20	敷島館	小網町	(大正 7 年)	『大正 7 年発行広島市街地図』に映画専門上映館として掲載	新修④ p489
			大正 10 年	(入場者数調査)	市議会史 p672
21	トキワニュース	三川町	昭和 15 年 12 月	「全国映画館名録」	映画年鑑⑧ p 762
			昭和 20 年 3 月 29 日	(上映案内)	新聞広告⑥
22	福栄館	楠木町		昭和 4 年以降 同 15 年までの間に設置	新修④ p492
	鯉城館		昭和 15 年 12 月	「映画館名録」	映画年鑑⑧ p 762
			昭和 20 年 8 月 2 日	(上映案内)	新聞広告⑤
23	松竹ハウス	大手町		昭和 4 年以降 同 15 年までの間に設置	新修④ p492
			昭和 15 年 12 月	「映画館名録」	映画年鑑⑧ p 762
			昭和 20 年 7 月 4 日	(上映案内)	新修④ p491 新聞広告⑦
24	別天座	大手町		昭和 4 年以降 同 15 年までの間に設置	新修④ p492
			昭和 15 年 12 月	「映画館名録」	映画年鑑⑧ p 762
			昭和 20 年 1 月 27 日	(上映案内)	新修④ p491～492 新聞広告⑧
25	港劇場	宇品町		昭和 4 年以降 同 15 年までの間に設置	新修④ p492
			昭和 15 年 12 月	「映画館名録」	映画年鑑⑧ p 762
			昭和 20 年 8 月 1 日	(上映案内)	新聞広告④
			昭和 20 年 8 月 6 日	興行場は港劇場のみを残し、すべて原爆で壊滅	新修④ p667



写真 4 新天座外観

大正 10 年、新天地開場とともに劇場として開業した「新天座」は新天地を代表する施設であった。



写真 5 新天座内部

2 劇場・その他

No.	名称	場所	年月日	記述内容	出典
1	芝居小屋*	大須賀村 (東松原)	明治 8 年	劇場区域制定時に区域外だったため、劇場とは認められず	繁昌記 p128
	明神座	明神浜	明治 14 年	明神浜に移転	尚古 p36
			明治 36 年 12 月	芝居小屋として設立	
		下柳町	(大正 2 年)	「劇場及寄席」	案内記 (T2) 附録 p10
	京橋町	大正 3 年	(劇場)	統計年表② p136	
2	荒神座	荒神町	(大正元年)	(寄席)	地名索引
			(大正 13 年)	『大正 13 年版広島市街地図』記載の劇場	新修④ p482
3	演舞場	小網町 (畳屋町)	大正 11 年	開設	新修④ p499
			(昭和 4 年)	(寄席)	大広島案内 p32
	東宝演芸		昭和 20 年 4 月頃	「広島市における劇場・映画館」にもと演舞場、実演とあり	新修④ p491
4	三篠座	横川	明治 40 年 2 月 13 日	開業	新修⑤ p199
5	ハクエイ 白栄座	白島東中町	大正元年 11 月	設立 (寄席)	統計年表① p139
			(大正 13 年)	『大正 13 年版広島市街地図』記載の劇場	新修④ p482
6	八千代劇場	舟入本町			新修④ p491 ~ 492
	昭和館			昭和 4 年以降 同 15 年までの間に開設	
			昭和 20 年 4 月頃	「広島市における劇場・映画館」	
7	宇品劇場	宇品町	昭和 20 年 4 月頃	「広島市における劇場・映画館」	新修④ p491

3 寄席

No.	名称	場所	年月日	記述内容	出典
1	朝日座	下柳町	明治 26 年 10 月 4 日	設立	尚古 p36
			(昭和 4 年)	(寄席)	大広島案内 p32
2	柳座	下柳町	明治 29 年 4 月 10 日	東遊郭に設立	尚古 p36
			(昭和 4 年)	(寄席)	大広島案内 p32
3	料芸館	(小網町)	明治 25 年 2 月 24 日	西遊郭に設立	尚古 p36
			(明治 34 年)	(寄席)	案内記 (M34) p88
4	旭の席	(小網町)	明治 32 年 1 月 1 日	(興行演目掲載)	芸備日日②
			(明治 33 年)	西遊郭に設置 (寄席)	繁昌記 p134
5	栄座	堺町	明治 32 年 6 月 17 日	堺町集産場に設立 (寄席)	尚古 p36
			昭和 20 年 4 月頃	「広島市における劇場・映画館」に実演とあり	新修④ p491
6	松の席	東松原 (大須賀)	(明治 34 年)	(寄席)	案内記 (M34) p88
7	八千代座	堀川町	明治 36 年 2 月 24 日	広島勸商場に寄席として成立	尚古 p36
			(大正 2 年)	「劇場及寄席」	案内記 (T2) 附録 p10
8	新栄座	東白島町	明治 30 年 11 月 7 日	(興行演目掲載)	芸備日日③

No.	名称	場所	年月日	記述内容	出典
9	朝日倶楽部	横町	(昭和3～4年)	(寄席)	広島案内 p34 大広島案内 p32
10	明治座	宇品町	明治37年1月	設立	統計年表 p139
			(大正13年)	『大正13年版広島市街地図』記載の劇場	新修④ p482
11	港栄座	宇品町	明治44年1月	設立	統計年表① p139
			(大正3年)	(寄席)	統計年表② p137
12	御幸座	宇品町	(昭和3～4年)	(寄席)	広島案内 p34 大広島案内 p32

注

- 『新修広島市史 第4巻 文化風俗史編』広島市役所、1958年、p491
- 『広島市勢要覧 昭和25年版』広島市、1951年、p132
- 『広島市勢要覧 昭和40年版』広島市、1966年、p135
- 『大日本職業別明細図 大広島市』東京交通社、1929年
- 前掲『新修広島市史 第4巻 文化風俗史編』p489

略年表出典資料一覧

- | | |
|--|---------------|
| 1 広島市編・発行『新修広島市史 第1巻 総説編』1961年 | 年表中の略称
新修① |
| 2 広島市編・発行『新修広島市史 第4巻 文化風俗史編』1958年 | 新修④ |
| 3 広島市編・発行『新修広島市史 第5巻 年表・索引・地図・編纂沿革』1962年 | 新修⑤ |
| 4 林保登著『広島繁昌記』東瀛社、1900年 | 繁昌記 |
| 5 林保登著『広島案内記』東瀛社、1901年 | 案内記 (M34) |
| 6 『尚古』第3年第8号 藤井禎造編、広島尚古会、1908年 | 尚古 |
| 7 広島湾要塞司令部編著『広島市地名索引』あき書房、1982年(1912年刊の復刻) 付録：第11表 | 地名索引 |
| 8 吉田直次郎編『広島案内記』友田誠真堂、1913年 | 案内記 (T2) |
| 9 広島市編・発行『広島市統計年表 第9回』1915年 | 統計年表① |
| 10 広島市編・発行『広島市統計年表 第10回』1916年 | 統計年表② |
| 11 広島市協賛会編・発行『広島案内』1928年 | 広島案内 |
| 12 昭和産業博覧会協賛会編・発行『大広島案内』1929年 | 大広島案内 |
| 13 広島市議会編・発行『広島市議会史 社会資料編』1986年 | 市議会史 |
| 14 日本図書センター編・発行『映画年鑑 昭和編 I』1994年 | |
| 『昭和編 I ①大正15年版』：『国際映画事業総覧』(国際映画通信社 1926年刊の復刻) | 映画年鑑① |
| 『昭和編 I ②昭和2年版』：『日本映画事業総覧』(国際映画通信社 1926年刊の復刻) | 映画年鑑② |
| 『昭和編 I ④昭和5年版』：『日本映画事業総覧』(国際映画通信社 1930年刊の復刻) | 映画年鑑④ |
| 『昭和編 I ⑤昭和9年版』：『国際映画年鑑』(国際映画通信社 1934年刊の復刻) | 映画年鑑⑤ |
| 『昭和編 I ⑧昭和16年版』：『日本映画年鑑』(大同社 昭和1941年刊の復刻) | 映画年鑑⑧ |
| 『昭和編 I ⑨昭和17年版』：『映画年鑑』(日本映画雑誌協会 1942年刊の復刻) | 映画年鑑⑨ |
| 『昭和編 I ⑩昭和18年版』：『映画年鑑』(日本映画雑誌協会 1943年刊の復刻) | 映画年鑑⑩ |
| 15 『中国新聞』①大正2年8月17日、②大正10年9月8日 | 中国①～② |
| 16 『中国新聞』広告：①昭和20年8月5日、②昭和20年7月25日、③昭和20年1月24日、④昭和20年8月1日
⑤昭和20年8月2日、⑥昭和20年3月29日、⑦昭和20年7月4日、⑧昭和20年1月27日 | 新聞広告①～⑧ |
| 17 『芸備日日新聞』①明治36年1月21日、②明治32年1月1日、③明治30年11月7日 | 芸備日日①～③ |

写真・地図出典一覧

- 写真 1 新修広島市史編纂資料
写真 2 昭和産業博覧会協賛会編・発行『大広島案内』1929 年
写真 3 『大正十年九月七日 新天地記念写真帖』1921 年
写真 4 『広島新天地』（広島市公文書館所蔵絵はがき）
写真 5 前掲『大正十年九月七日 新天地記念写真帖』
地図 東京交通社編・発行『大日本職業別明細図 大広島市』1939 年

戦前の映画、劇場パンフレット（広島市公文書館所蔵資料より）



左上から

- 【上段】別天座「別天座週報 No. 21」（1939 年頃）、大東亜映画劇場「大劇情報 第 11 号」（1943 年頃）
オリオン座「ORION-ZA NEWS 14 号」（1933 年発行）、太陽館「太陽館週報 No. 166」（1939 年頃）
【中段】世界館「SEKAIKAN NEWS」（1936 年頃）、壽座「壽座ニュース 第 41 号」（1942 年頃）
広島東宝映画劇場「広島東宝映画劇場 No. 1」（1939 年頃）
【下段】昭和シネマ「SHOWA NEWS No. 29」（1933 年頃）、世界館（映画「年ごろ」リーフレット）（1938 年頃）
高千穂館「TAKACHIHO NEWS No. 145」（1939 年頃）、「TAKACHIHO NEWS No. 88」（1936 年頃）